

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 上津役 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査	
<input type="radio"/>	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

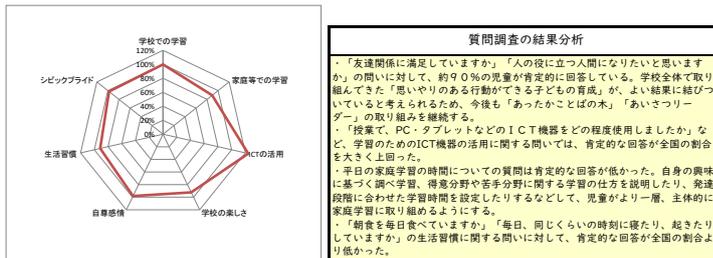
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答率	平均正答率	平均正答率	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	文章を読んで登場人物の人物像を読み取るなど、「読むこと」の領域がよくできている。読解力が身に付いていることが伺える。一方で、自分の考えを表現すること（考えが伝わるように工夫して書いたり話したりする）に課題が見られる。また、学習した漢字を文中で正しく使うことができるかをみる問題など、「言葉の特徴や使い方」の領域も課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	話し言葉と書き言葉の違いが分かることができるかどうかをみる問題 自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	問題場面の数量の関係を捉え、正しく式に表すことがよくできている。一方で、式に表した後の計算に課題がある。また、示された情報から必要な数値を読み取り、判断したり説明を記述したりすることにも課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる問題 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

基礎基本の定着に向けて始めた朝自習の取組を今後も続けることで、漢字や計算等の習熟を図る。学校全体で取り組んできた「考えを表現できる子どもへの育成」について、ノート作りやタブレット活用については定着してきている。今後は、書き方や話し方を工夫して相手に分かりやすく表現する活動や、情報から必要なものを取り出して判断したり説明したりする活動を学習の中で設定する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらい時間を、勉強をしますか」の質問は肯定的な回答が低かった。そのため、より効果的な家庭学習の取り組み方について、手紙や懇話会を通して継続的に啓発することで、児童がより一層、主体的に家庭学習に取り組めるようにする。生活習慣についても、家庭と学校で連携を図りながら改善を進めていく。